

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	上原成商事本社新築工事	階数	地上8F
建設地	京都市中京区車庫町通押小路下る塗師屋町344番地外	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域、3M高度地区、沿道整美地区、都市緑地整美地区	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年10月17日
敷地面積	487.94㎡	作成者	南野 剛也
建築面積	385.95㎡	確認日	2019年10月18日
延床面積	2,784.18㎡	確認者	松井 宣明



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 86% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 85%

④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.7

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	立体的な京町家をコンセプトに、下記3点の大きなコンセプトをベースに設計した。 ・3階と7階にバルコニーを設けて外部からの熱負荷低減を図っている。 ・執務室は縦ルーバーによる熱負荷低減と階段室の壁を利用した自然換気システムの導入で積極的に環境荷低減に取り組んだ。 ・外観は周囲の伝統的な意匠に配慮した低層部と事務的な空間としての高層部でそれぞれ街並みに調和するよう配慮した。	その他 特に無し
<b>Q1 室内環境</b>	メインで利用する東側に開口のある執務室は、縦ルーバーを設置しかつ窓ガラスをLow-Eガラスとすることで熱負荷低減に配慮している。さらに中間階は階段の壁を利用した自然換気システムにより空調負荷低減にも寄与している。	<b>Q2 サービス性能</b>
<b>LR1 エネルギー</b>	Low-eガラスを採用して熱負荷低減に配慮した。直接外気に触れる床面は断熱の厚みを上げるなど状況に応じた配慮を行った。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	エコマーク付き製品を内装材の一部に使用している。	<b>LR3 敷地外環境</b>
		LCCO <sub>2</sub> 排出量削減に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される